

六部廻国供養塔

日本六十六カ国を巡り、霊地に法華経を納めるために、白衣に手甲・脚絆姿の廻国聖を六部という。現世において善行を積めば、来生は幸せになれるという信仰から、橋を架けたり供養塔を建てるなど地域貢献をしながら廻国した。

牧ヶ峠のこの石造物の下から、おびただしい数の一字一石の小石が国道建設で移転の際出てきた。法華経の経文を小石に一字づつ書いたと思えるが、この小石とこの大きな石に刻まれている文字から、六部の全てが理解できそうである。大乘妙典塔ともいう。



西
三
月
廿
日

奉
納
大
乘
妙
典
一
字
一
石

日
本
廻
国

明
和
二
年

六
部
義
関

